



医学部だより

第24号

2012.4.1



Stay hungry, Stay foolish.

医学部長 玉置 俊晃

新入生の皆様、徳島大学医学部入学おめでとうございます。皆さんは非常に難関な大学入試を突破し医学部に入学されたので、将来の人生の方向性がかなり明確になり、満開の桜の下で希望に燃えていることと思います。この晴れやかな人生のターニングポイントで、希望に燃えた志を大切に、新入生の皆様が素晴らしい大学生活のスタートをきることを心より願っています。

徳島大学医学部には、医学科、栄養学科、保健学科の3つの学科があり、何れの学科に入学した新入生も将来は、医療・医学や福祉を担う医療人として専門的な知識や医療技術を提供して社会に貢献することになると思います。また、医療・医学の教育者や研究者になる道や医療や福祉の社会医学分野で活躍する道も用意されています。どの様な道を選ぶにしても、現在の医学・医療の専門知識や技術を身に付けただけでは、生涯を通じて医療人や医学者として十分な活躍は出来ません。20世紀後半から、生命科学や医学に関する情報は爆発的に増加して、医療の世界にも新しい技術・新しい理論・新しい治療法などが次々と急激に増加してきています。医師にしろ、栄養士にしろ、看護師にしろ、放射線技師にしろ、臨床検査技師にしろ、医療人を目指す皆様は、この医学・医療の急激な進歩に対応していく事が求められます。徳島大学医学部医学科の教育目的・目標の(1)には、「科学的根拠に基づいた医療・研究が行えるように自己開発と自己評価の習慣を身につける。」と記載しています。現在の医学・医療の急激な進歩に対応していくためには、学生時代においても受動的に知識や技術を身に付けるだけでは不十分です。生涯にわたって良き医療人として活躍するためには、自己開発と自己評価を行うための自学自習の習慣を学生時代に身につける必要があります。今、習った知識や技術は5年後や10年後には、役に立たない知識や技術になる可能性は非常に高いのです。社会貢献出来る医療人として活躍して行くには、自

分に必要な知識や技術を常に吸収していく姿勢が不可欠です。このために、学生時代に自己開発と自己評価の習慣を身につける必要があると、私は考えています。

医学部に入学した皆さんが、単に、国家試験の合格を目指しているだけでは決して良い医療人にはなれません。生命科学や医学の世界では明らかになっている事より十分に解明されていない不明事が圧倒的に多いのが現状であろうと思います。徳島大学医学部は四国で最も歴史がある研究大学として医学・医療の進歩・発展のために多くの生命科学に関する情報を世界に向けて発信するとともに、世界最高レベルの若手研究者の育成に取り組んでいます。また、医学部内には Student Lab が整備されており、入学当初より希望者は生命科学の基礎を自由に学ぶことが出来ます。さらに徳島大学蔵本キャンパスには、医学部だけでなく歯学部・薬学部・疾患酵素学研究センター・疾患プロテオゲノム研究センターなどの多様な生命科学研究組織が集約されており、医学部学生さんや若手研究者にとって最高の研究環境が整っているとともに、教育面では inter-professional Education が実践されています。

このような整った環境が整備されている徳島大学で、大学生活の一時期を研究に没頭してみませんか？夢中になってみませんか？基礎医学の研究だけが研究ではありません。医療人がかわる臨床の現場には、多くの疑問が山積みになっていますし、解決が必要な問題も沢山あります。臨床研究も非常に重要です。徳島大学の医学部の学生さんは、今の自分に満足することなく、自己開発と自己評価の習慣を身につけた research mind を持った医療人に育って欲しいと念願しています。徳島大学に入学して医療人としての第一歩を踏み出そうとする皆さんへ、ステイーブ・ジョブズ氏の言葉を贈ります。

Stay hungry, Stay foolish.

目次

CONTENTS

医学部長挨拶	1	蔵本祭	8
新入生のみなさんへ	2	数字で見る医学部	9
先輩からの医学部紹介	4	第58回徳島大学解剖体慰霊祭	9
学友会活動	5	新任教職員あいさつ	10
医学部行事予定	5	准教授紹介	10
外から見る医学部	6	退職者ご挨拶	11
徳島医学会報告	7	受賞者紹介	11
学遊抄	7		



プロフェッショナルの流儀

医学科長 丹 黒 章

入学おめでとうございます。苦しかった受験勉強に耐え、難関を乗り越えた君たちに心から敬意を払い、祝福したいと思います。

今日から徳島大学医学部学生としての希望に満ちた日々が始まります。大学というところは人を育てるところですが、縛られる校則も、お世話をしてくれる担任もなく、多くの自由が与えられます。

しかし、君たちは自分のことは後回しにしてでも他人の面倒をみなければならない“医師という職業”を選択しました。私は外科医で、主にがん治療を専門にしています。がんを治すために手術や抗がん剤、放射線治療を行います。手術は患部を切り取るという危険を伴い、放射線治療にも抗がん剤にも多くの副作用があります。風邪薬にも副作用があり、致死的なアレルギーが出ることもあります。クスリを反対から読めばその意味が判ります。医師にメスやクスリを使える特権が与えられているのは、厳しい修行で自分を鍛え、人のために尽くすという戒めを自らに課しているからです。医師には人を治し癒すという責務があります。医学部に合格した時点で君たちはその責務を担うのです。これからの6年間、この責務を担えるだけの人間

力、知識を身につけてください。今日からは人のお世話ができて、自分を客観的に観察できるよう研鑽してください。自分のことで精いっぱい人のお世話などとてもできないという人はクラブ活動をして自分を鍛えてください。この6年間にしてほしいことは多くの友をつくること、できるだけ多くの本を読み、多くの経験を積むことです。人生に近道はありません。どれだけ自分を鍛えたかが自分だけでなく患者に跳ね返ってきます。

徳島大学は様々なチャンスを君たちに提供します。3年時の医学研究実習（研究室配属）では未知に挑戦する研究者としての経験を積むことができます。5年時の臨床体験実習では実際に臨床経験を積むことができます。海外留学のチャンスも与えられます。

医師はただ患者を治すだけでなく、科学者でもあります。今日から君たちは科学者であるということに自覚してください。いつも目の前にあるのにまだ誰も気がつかない“真理”という宝物を掘り出せるのは、“常に探求する心”です。

どうか自由をはき違え、自宅に引きこもり、自堕落な生活をする事なく、多くの友と自由を謳歌してください。人生は経験です。経験が思いやりと新しいものを創り出す創造力を養い、新たなモチベーションを生むのです。



栄養学科へようこそ

栄養学科長 寺 尾 純 二

新入生の皆様、入学おめでとうございます。栄養学科は1964年の創立以来まもなく50周年を迎えようとする管理栄養士養成施設であり、日本有数の栄養学

教育拠点でもあります。そして大学院栄養生命科学教育部と一体化して、世界の栄養科学研究を先導しています。本学科は大学附属病院や医療関連学部および研究センターが集中した蔵本キャンパスにあるという立地条件を生かし、疾病の予防から治療まで医学に基づいた最新の栄養学を学べる恵まれた環境にあります。臨床栄養学、分子栄養学、代謝栄養学、実践栄養学、生体栄養学、食品機能学、予防環境栄養学の従来の7分野に加えて、病院栄養部と連携した医科栄養学分野が本年4月から新

しく発足しました。これは医学部に設置された本学科の特徴を生かして医療栄養学研究教育を重点化するものです。皆様の先輩達である2,200人を越える栄養学科卒業生は、大学で教育研究に携わる大学教授や国内外の研究機関で活躍する研究者、病院において栄養指導を実践する管理栄養士など様々な方面で全国的に活躍しています。また企業での商品開発、行政での健康増進活動、日本栄養士会活動などを通じて我が国の栄養学分野で大きな力を発揮しています。新入生の皆さま全員が将来は栄養のリーダーをめざし、この恵まれた環境を生かして知力、体力そして「人間力」を大いに鍛え、4年間で大きく飛躍することを願っています。



保健学科新入生の皆様

保健学科長 多 田 敏 子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは保健学科の11期生になります。大学から合格通知が届いてから、入

学までどのように過ごされましたか。大学受験は皆さんの人生にとって、大きな節目だと思います。その理由は、自分が将来どのような職業につくのかを選択することになるからです。特に、保健学科を選択された皆さんには、医療に従事したいという漠然とした気持から、看護師あるいは助産師・保健師・養護教諭、診療放射線技師、臨床検査技師のいずれかの職種に絞り込まなければなりません。さらに、保健学科入学後にも、いくつかの選択肢があります。例えば、看護学専攻では、保健師、

養護教諭の資格に必要な科目は選択科目になっています。また、将来も大学院進学あるいは就職先等、常に選択が必要です。しっかり自分の意思で考え、主体的に選択する力を保健学科で養っていただきたいと思います。

最後に、医療に従事する人、特に国家資格を得ようとする人は、常に国民から見られていることを忘れないでください。これからの皆さんには「将来医療に従事する人が・・・」という評価がつきます。大学生の時期に、社会人としてのマナーをしっかり修得してください。蔵本キャンパスには、学生だけでなく医療サービスを利用する方々がたくさんおられます。皆さんが、マナーを修得するにはうってつけの環境です。皆さんの成長を楽しみにしています。

新入生の皆さんへ



医学科4年次 福永 大幹

新入生のみなさんご入学おめでとうございます。みなさんは、長くつらい受験勉強を乗り越え、ついに自由と希望に満ちた大学生活を送ることになりました。新入生の方々はきっとたくさんやりたい事があるはず。勉学に励む、部活動で活躍する、異性との純真な交遊を楽しむ、バイトに奔放する、などなど、大学生活では責任を伴いながらですが、本当に様々な事が出来るはず。

せんえつながら、大学生活に対して、僕からアドバイスを2つしたいと思います。

1つ目は、時間は有限であり、なおかつ身体は一つしかない、ということです。繰り返しになりますが、皆さんたくさんやりたい事があると思います。しかし、なんでもかんでも100%目標通りというわけには行きません。目標をできる限り達成するためにも、したいこと、やりたいことの優先順位をつけ、計画を綿密に練り、しっかりとタイムマネジメントし、より有意義な大学生活を過ごしてください。

2つ目は、なんでも楽しむ、ということです。“おもしろきことなき世をおもしろく”と昔の人が言っていましたが、まさにそんな感じです。大学生活では様々な講義を受け、多種多様な人間関係をもつこととなります。時には“おもしろきことなし”と感じることもあると思います。しかし、せっかくですから、おもしろくないものを自分でおもしろく変えていく、それが出来ないものならば、おもしろい側面を探してみる、そうした方がきっと充実した大学生活を送れるはず。

最後になりますが、皆さんの大学生活が楽しく、充実したものであらんことを心よりお祈り申し上げます。



栄養学科4年次 筑後 桃子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長く辛かった受験生活を終えて、これからの大学生活に様々な期待を抱いていることと思います。

大学生になった今、高校生の頃の生活を振り返るとどうですか？「時間がもう少しあれば…」と思ったことはないですか？大学生活では、高校生ほどの時間の制約はありません。つまり、自由な時間が多くなります。しかし、自由な時間が多くなることによって、自分なりに工夫して、時間を上手に使ってすごしていくことが大切になってきます。学業優先はもちろんですが、大学生なので、部活やサークル、バイト、趣味など時間の使い方は様々だと思います。「今しかできないこと」「今だからできること」を見つけ、自由な時間を有効に利用できれば、きっと有意義な大学生活が送れると思います。

さらに、大学生活では、様々な活動を通して出身や年齢、時には職業も様々な人々との交流を持つことが多くなります。様々な人と関わりを持つことは、より良い人間関係の築き方を学ぶチャンスです。また、大学時代の出会いがこれからの人生に関わってくることもあると思います。『一期一会』人との出会いを大切にしてほしいと思います。

大学生活も長いようで、実際には短いものです。悔いの残らないよう、健康第一に、有意義で楽しい大学生活を送ってください。



保健学科看護学専攻4年次 片瀨 里奈

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

大学生活は長いようであっても、あっという間に過ぎていきます。学年があがるにつれて、講義や実習が増え、自分の時間をつくるのが難しくなっていきます。部活動やアルバイトなど、やりたいことは1年生からどんどん挑戦して行って、後悔しない大学生活を送ってください。

看護学専攻は臨床実習など、大変なこともたくさんありますが、先生方や先輩方、友達に支えられながら多くのことを学び、充実した大学生活を送ることができると思います。みなさんも、勉強も遊びも一生懸命にして、充実した大学生活を送られることを心から願っています。



保健学科放射線技術科学専攻4年次 鎌田 真奈

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。昨年の東日本大震災がきっかけで放射線に興味を持たれた方も居るのではないのでしょうか。この専攻は医学部に属して

いますが、医療に利用されている放射線だけでなく環境中の放射線についても学びます。実際に放射性物質を取り扱う実習も行うので、楽しみにしてください。

大学生活では、長期休暇や授業の合間に自分の時間を多く持てます。学習に当てる時間を持つのももちろん大切ですが、アルバイトや部活動など積極的に活動して多くの人と交流を持つことで自分の世界が大きく広がると思います。それでは、大学生活を大いに楽しんでください。



保健学科検査技術科学専攻4年次 指田 陽亮

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長かった受験生活も終わり、これからの新しい生活に期待を膨らませていることと思います。

検査技術科学専攻では、1年の間は自由な時間がたくさんありますが、2年、3年と学年が上がるにつれて授業や実習が増え、自分の時間を作るのが難しくなってきます。部活動、アルバイトなどやりたいことは1年の間にどんどんチャレンジしてください。

大学生活では、学内だけではなく、アルバイトなどを通じて様々な人と交流していくことも大切かと思えます。社会に出て行く前の準備期間でもあるので、色々なことに挑戦し、人との交流を大切に有意義な大学生活を送ってください。



先輩から医学部紹介

新入生のみなさん
ご入学おめでとうございます

講義について

栄養学科3年次 橋本 怜

高校と大学の大きな違いについてお伝えします。ほとんどの高校では朝から放課後まで、何の授業があるか大体決められていたと思います。しかし、大学生の1年目では一般教養と呼ばれる講義を自分で選びます。もちろん必ず受けないといけない講義や実習もありますし、進級に必要な単位分は講義取らないといけません、講義が入っていない時間は何をするか自由な時間となります（空きコマと呼ばれます）。一般教養は4つの分野に分かれており、理系科目、文系科目の両方を学ぶこととなります。講義には色々種類があるので、自分の興味のある講義を探してみてください。去年、一昨年と同じ講義をしている場合もありますので、どの講義を取るか迷ったら先輩に相談するのも良いと思います。また、一般教養では自分とは違う学科の人と一緒に講義を受けることもよくあります。学年が上がると他の学科、特に常三島キャンパスの人と話す機会が減るので、1年目は色々な友達を作るチャンスですよ。

次に専門科目についてです。専門科目とは学科によって異なる講義であり、週に1~2回蔵本キャンパスで講義を受けることとなります。皆さんが入った学科に則した講義内容であるため、興味を

持てるのではないかと思います。中には難しい内容であったり、実験・実習のレポートを出さないといけないだったりする事もあるので頑張ってください。学年が上がると専門科目が多くなるため、より専門的なことを学べるようになります。図書館には様々な本があるので、教科書で分からない事があれば図書館の本を利用するのも良いと思います。

大学では空きコマ、講義が予定時間より早く終わるなど、ちょっとした空白の時間ができます。その時間を有効に使うことで、将来の目標に大きく近づけます。皆さんが充実した大学生活が送られるよう応援しています。



部活動・サークル活動について

保健学科4年次 小島 巧也

大学生には時間がたくさんあります。学校の勉強をすることはもちろん大事ですが、わたしはそのたくさんある時間を自分の大好きな野球と、たくさんの人と関わる時間に費やしました。

蔵本キャンパスにはいろいろな種類の部活やサークルがあり、どこもそれぞれの特色があって、自分に合う部活やサークルが見つかります。わたしは硬式野球部に所属していますが、ここでは私が思う大学での部活動、サークル活動のよさについて書こうと思います。

まず、部活動に入ったことで他の学科、専攻の友達ができ、

先輩、後輩とも親しくなることができます。自分の学科内だけでなく、他にも自分の居場所ができたことが、私が部活動をしてきて一番よかったことです。勉強の悩みや、就職のことについてもいろいろな人の意見を聞くことができるので、必ず自分のためになりますし、人として成長できると思います。

また、大学での部活動、サークル活動では、中学、高校の部活とは違った楽しさや、感動を得ることができます。わたしは、高校時代まで野球を続けていましたが、一つの集団で必死にがむしゃらにやっていた高校時代までの野球と、のびのびと自主性に任された環境の大学での野球の二つの違った

よさを感じることができ、もっと野球が好きになりました。もちろん、一生懸命にたくさん練習をされている部活もありますので、思いっきり部活を楽しみたい方はぜひ、入部してみてください！

新入生のみなさん、どの部活、サークルもみなさんの入部を楽しみにしています。ぜひ、気軽に足を運んでみてください！



大学生協

医学科4年次 福永大幹

新入生の皆さんこんにちは。講義、部活動に続いて、大学生協について紹介させていただきます。蔵本キャンパスには蔵本SHOPとカフェ施設“くらら”があります。

蔵本SHOPは大学内のコンビニのようなものであり、授業に必要な文房具や専門書、白衣など、“学び”に関するもの、パンや弁当、お菓子、雑誌や小説など“憩い”に関するもの、また高速バスのチケットの手配や、旅行の手配、教習所の申し込みなど、“遊び”に関するもの、なんでも購入することができます。

もう一つの施設であるカフェ施設“くらら”には、食事や談話を楽しむスペースがあり、講義の合間や少し空いた時間に多くの学生が利用しています。また、定食や軽食だけでなく、持ち帰るための弁当やどんぶりなども置いていて、たくさんの学生がここで昼ごはんを購入しています。

あまり知られていないのですが、大学生協には生教に関する質問や要望などを書くと、スタッフの方が返事をし、貼り出してくれる“一言カード”というものがあります。中には、“愛がほしい”、“単位がほしい”、“店員さんキレイですね”、などの質問もありますが、それらにもまじめに返答

しているのです、ぜひ足を止めて確認してみてください。

“よく学び、よく遊ぶ”そんな大学生活をサポートしてくれる大学生協を上手に活用することにより、あなたの大学生活がより楽しく、充実したものになるはずです。



学 友 会 活 動

● 運動部

	クラブ名	部長
1	硬式野球部	中西 秀樹
2	ソフトテニス部	武田 英二
3	ラグビー部	中西 秀樹
4	卓球部	香美 祥二
5	柔道部	永廣 信治
6	弓道部	石村 和敬
7	剣道部	安井 夏生
8	準硬式野球部	島田 光生
9	合気道部	上野 淳二
10	水泳部	中屋 豊

● 文化部

	クラブ名	部長
11	硬式庭球部	福井 清
12	バドミントン部	土井 俊夫
13	サッカー部	高橋 章
14	バレーボール部	勢井 宏義
15	バスケットボール部	泉 啓介
16	空手道部	丹黒 章
17	陸上競技部	福井 清
18	ゴルフ部	苛原 稔
19	フットサル部	阪間 稔

	クラブ名	部長
1	軽音楽部	中西 秀樹
2	外国語研究会	福井 清
3	栄養学研究会	寺尾 純二
4	茶道部	羽地 達次
5	室内楽同好会	大下 修造
6	地域医療研究会	谷 憲治
7	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	

※入部等の問い合わせについては、学務課(学生指導担当: ☎633-7030)へ連絡してください。

医学部行事予定 (平成24年4月～平成24年9月)

- 4月6日(金) 徳島大学入学式、医学部共通新生オリエンテーション (13:30～長井記念ホール)
- 4月5日(休)～10日(火) (6日を除く)
医学部新入生学科別オリエンテーション
医学科、栄養学科、保健学科
- 4月5日(休) 学生定期健康診断 医学科・栄養学科1年次
- 4月9日(月) 学生定期健康診断 保健学科1年次
- 4月7日(土) 医学部新入生研修 (於:長井記念ホール)

- 4月11日(水) 新生入学授業開始
- 4月23日(月)、24日(火)、26日(木) 学生定期健康診断
医学科・栄養学科2年次以上
- 4月25日、27日 学生定期健康診断
保健学科2年次以上
- 8月8日(水)～ 西日本医科体育大会
- 8月8日(水)～10日(金)
徳島大学オープンキャンパス (学部説明会)
医学科、栄養学科、保健学科

外から見る医学部

医学教育におけるメーリングリストの利用

徳島大学名誉教授 森 博 愛

私が最初に徳島大学における教育、研究に関与するようになったのは、1959年に第二内科学教室（現；消化器内科）油谷友三教授のもとに講師として赴任し、主として循環器学領域の研究、診療に従事した頃からである。

当時の徳島大学医学部および付属病院の建物は、旧日本陸軍の兵舎を改造した粗末な木造平屋建ての建物で、廊下を歩くとぎしぎし音がし、雨漏れがあるような状態であった。現在は広い敷地内に鉄筋コンクリートの近代的建物が建ち並び、中央診療棟、入院棟などは近代的な様式に面目を一新したが、外来から検査棟への距離が著しく遠いなど、将来的には改善の必要がある。

本来、大学医学部の使命は教育、研究、診療の3つであり、これらを渾然一体として時代の進歩と地域のニーズに適合させていかなければならない。これはなかなか言うは易く、行うは難い大変な仕事である。

大学および大学病院は、第一線の研究、診療を展開すると共に、教育については学生に昔ながらの基礎的知識を充分体得させ、併せて先進的課題についてもある程度の知識を与えなければならない。このような広汎な責務を現在の大学の限られたスタッフでカバーすることは不可能に近い。この点を打開するには、徳島大学をこれまでに築いた多数の同窓先輩の全面的な協力を求めることが必要であると思う。



脇町うだつ通りにある大正時代そのままの私の生家（森医院診察室）以下写真は総て現在の状態



薬局調剤机



待合室と受付兼薬局



台所

医学科学生も多くは、卒後の或る期間は研究に携わるとしても、多くは何れ臨床医学の道に進むと思われるが、これらの人々には在学中および卒後研修期間中にみっちり臨床医学の基本を身につけるような教育を実施しておく必要がある。

医師のシンボルとも言うべき聴診器は付属病院の総ての医師が持っているであろうが、果たしてその内の何人が聴診器を充分使いこなすことができるであろうか？心電図も現在はルーチン検査の1つとして、内科のみならず多くの科で記録されているが、果たして大学病院の何名の医師の方が心電図を適切に診断できているであろうか？

少なくとも学生時代に、臨床医学のルーチン検査の基本的な考え方を身につけておくことが必要である。私は1952年以来臨床心電学の研究、教育に携わってきた経験を生かし、2000年にメーリングリスト「ninai」を立ち上げ、第二内科同門の方々の連絡に供すると共に、心電図、心エコー図、心機図などの循環器画像診断の学部補完教育のお手伝いを意図したことがあったが、周囲の方々の十分な理解が得られず、心電図法についてのみのメーリングリスト（ML）による学部教育の補完および卒後教育を試験的に開始した。この試みはそれなりに成果を上げ、高山教授就任までに情報発信数は2,500通に達したが、残念なことに本学学生諸君の参加は意外に少数に止まった。

第二内科が消化器内科に衣替えした機会に、このMLを私のホームページ（HP）を通じて公開したところ、会員数が急増し、現在は沖縄から北海道まで全国から450名の方々が入会し、平成23年末時点での情報発信数は2300通に達した。この臨床心電図学の補完・卒後教育システム「ECG-seminar」への参加は無料で、参加方法は私のHP（<http://www.udatsu.vs1.jp>）に記載しており、簡単な手続で入会できる。なお、このシステムはYahooが無償で提供しているシステムを用いているため、参加費を含めて一切の経費は無料である。

このMLによる教育システムは、単に心電図だけでなく、広くあらゆる画像診断教育、医学情報伝達手段として極めて有用であるが、未だ徳島大学医学部では一般的に利用されていないのは残念なことである。

このような新しい情報伝達手段の活用により徳島大学医学部における臨床教育が更に充実したものに発展することを期待している。

徳島医学会報告

■第244回徳島医学会学術集会（平成23年度冬期）

精神医学分野 大森 哲 郎

第244回徳島医学会学術集会は平成23年2月12日に長井記念ホールにおいて開催された。徳島大学側の担当教室を分子栄養学分野（宮本賢一教授）と精神医学分野（大森）が務めた。参加者は、大学関係者が81名、医師会関係者が82名、公開シンポジウムへの一般市民参加者は県外6名を含む91名、合計254名を数えて盛会であった。

午前中には教授就任記念講演として、放射線治療技術科学分野の生島仁史教授が「がん放射線療法－技術革新がもたらす真の適応」というタイトルで、ついで予防環境栄養学分野の高橋章教授が「腸管細胞感染症の発症機序－腸炎ピブリオを中心に－」というタイトルで講演された。それぞれの領域の最新動向とそのなかでの両先生のお仕事の意義がよくわかる素晴らしい講演だった。

ついで2会場に分かれてポスターセッションに移り、29演題の発表に対し活発な質疑応答が交わされた。いずれ劣らぬ発表の中から第28回徳島医学会賞に選ばれたのは、大学からは循環器内科学分野の坂東美佳氏と医師会側からは川島病院の西内健

氏であった。また初期臨床研修医に贈られる今回で7回目になる若手奨励賞には、徳島大学の矢野祖氏と田岡病院の高橋直希氏が選ばれた。選考はいずれも僅差であった。受賞された4氏のますますのご活躍を期待するとともに、惜しくも選には漏れた演者には再挑戦してもらいたい。

昼食をはさみ、前回27回の徳島医学会賞を受賞した臨床栄養学分野の大谷彩子氏と川島病院の中條恵子氏から研究報告があった。高度な内容に徳島医学会のレベルの高さを実感した。

午後からは市民公開でシンポジウム「メンタルヘルスと栄養」が開催された。タイトルと演者は、1)摂食障害について（友竹正人氏、メンタルヘルス支援学）、2)リフィーディング症候群について（中屋豊氏、代謝栄養学）、3)うつ病と栄養（武田英二氏、臨床栄養学）、4)認知症と栄養（住谷さつき氏、精神医学）、5)わが国における鉄欠乏、鉄欠乏性貧血女性の増加と栄養（小阪昌明氏、きたじま田岡病院）であった。身体の健康と栄養との関係にくらべると、こころの健康と栄養の関係は研究が緒に着いたばかりである。5人の演者の講演から、この領域の最新知識を学ぶことができた。また、家族や友人と食卓を囲みながらバランスのよい食事を過不足なく摂取するという、まさに常識の教えることの大切さもあらためて感じさせられた。

大学と医師会が合同して開催する徳島医学会は、地域の医療と医学の発展に大きな貢献を果たしている。次回は平成24年7月29日に徳島県医師会館において開催されるはこびである。



学遊む

臨床栄養学分野 武田 英 二

私は1978－1980年まで米国インディアナ大学医学部へ留学する機会を与えていただきました。当時酵素科学研究センター（現疾患酵素学研究センター、前徳島文理大学学長）の勝沼信彦教授に推薦していただきG Weber教授のもとで研究させていただきました。研究テーマは癌研究で、薬として開発できる化学物質の抗がん効果をプリン・ピリミジン代謝阻害機能を指標として培養細胞、動物、ヒト組織を用いて評価していました。化学物質単独の抗がん機能とともに、他の化学物質との組み合わせ効果に興味を持って研究しました。この考え方は、大量化学療法とレスキュー療法の基盤になったと思います。そのお陰で、癌の糖質・プリン・ピリミジン代謝および代謝調節機構を勉強することが出来ました。癌細胞はミトコンドリアが豊富であるが好氣的解糖は十分に行われていない Warburg 効果を感じ不思議に思っていました。動物では著明な抗がん効果を示す化学物質もヒトでは効果を示さないことが多いことから、ヒトと動物の大きな違いを感じました。

本写真はWeber教授が主催するAdvances in Enzyme Regulation国際シンポジウムに勝沼教授が招待されてインディアナポリスに来られたときに、同僚のSuttle先生、Zhang先生、Lui先生とともに我が家でパーティーを行ったときの写真です。勝沼先生は話題が豊富で、研究、剣道、世界中の友達、Weber教授と友達になったときのエピソードなどを、朝の4時ころまでずっと喋ってくれました。滞在中に研究室でされた講演では、冗談を



交えて聴衆者の興味を引く内容と態度で、外国人の誰とでも仲良くなる秘訣の一端をみせていただきました。

教育者研究者になる気持ちが無かった自分にとって、留学の機会を与えていただいたことは、帰国後の小児科および栄養学科での教育研究の基盤となり、人生の進路決定にとって大きな転機になりました。Weber教授には、1986年にブダペストでの国際癌学会、1999年と2005年にAdvances in Enzyme Regulation国際シンポジウムに招待していただき発表の機会を与えていただきました。30年以上も前の留学のときのことは昨日のこのように懐かしく思い出されます。このような留学中に経験した国際交流、米国研究者の生活や論文発表・研究費獲得に対する努力、研究室のアピール、さらに家族との生活や楽しい旅行などを、次代の栄養学を担う若手人材にも経験してもらいたいと強く思っています。

蔵 本 祭

第27回蔵本祭実行委員長 医学科5年次 西川 大 定

実行委員長として運営してきた第27回徳島大学蔵本祭を無事に終えることができ、ほっとしているとともに、すこし寂しい気持ちがあります。すばらしい経験ができたことなど、多くの仲間と作り上げた今回の蔵本祭は、一生の思い出となりました。

蔵本祭は、実行委員会だけで学園祭を運営するのではなく、約750名もの学生が委員として運営に関わっています。多くの



学生は運営側でもあり、来場者側でもあるのです。自分たちで作り上げて、自分たちも楽しむというのが蔵本祭の強みであると思います。

また、数年前より蔵本祭実行委員会は地域の夏祭りの運営もお手伝いさせていただいており、今では、学生が夏祭りを盛り上げ、地域の方々が蔵本祭を盛り上げるといった関係にまで発展しています。そして今年は、地元警察の方々と『蔵本LOCKの会』を結成し、蔵本地区の自転車盗難防止活動に取り組んでいます。蔵本祭は大学のお祭りではありますが、大学内にこだわらず、もっと広くアイデアを取り入れたり、他のコミュニティや団体を巻き込めるとより大きく新しいものになるのではないかと感じました。これからも蔵本祭は少しずつ前進し、常に新しいことを模索しながら、より楽しいお祭りになっていくことでしょう。

最後に、蔵本祭の開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆様と、来場者の方々に心から御礼申し上げます。

蔵本祭を終えて

第27回蔵本祭栄養学展委員長 栄養学科4年次 阿部 航太郎

私は、今回初めて蔵本祭に参加し、栄養学の委員長として蔵本祭の企画・運営に携わりました。今年の栄養学展は「脂質異常症」をテーマに1日150食の食事提供と展示を行いました。当日は、食事提供時間前から行列がで、開始から約2時間で予定食数がなくなるほどのお客さんが来場され、大変ではあ



りましたが、非常に達成感を得られました。また、展示の内容に関してお客さんの方から質問やコメントをいただき、管理栄養士を目指す学生として栄養について知ってもらうことの難しさや重要性も経験することができました。今回は、料理が食べられなかったお客さんにも何かできないかと思い、提供した料理のレシピ等を載せたパンフレットを作成し、好評をいただきました。

栄養学科の2,3年生の栄養学展委員や実行委員の方々の協力があったからこそ、私はこのような貴重な経験をすることができました。この機会に学んだことを今後の学生生活だけでなく、社会に出た後も役立てていきたいと思っています。

たくさんの笑顔と「ありがとう」

第27回蔵本祭模擬病院部委員長 保健学科看護学専攻3年次 若林 紗也子

今年の模擬病院には、2日間を通して約400人の方に来場していただきました。去年の来場者数を大きく上回り、たくさんの方に足を運んでいただけたことを本当に嬉しく思います。例年、保健学科棟の場所が分かりにくいということが挙がっていたのですが、今年は同じ場所で鍼灸展・デザートハウスが行われたことが今まで模擬病院を知らなかった方々を導くことが出来たのだと思います。今年は手浴、足浴、放射線濃度の測定と今までにない企画を取り入れたこともあり、どのような反応を受けるのかということにとっても心配していました。しかし、模擬病院に毎年来ていただいている方、そして初めて足を運んでいただいた方から「来年もぜひ来たい」「本当にリラックスできた」等の温かい言葉を多くいただき心を打たれました。来場者の方々が一番喜んでいただける形にするまでには模擬病院委員で試行錯誤し、辛いこともありました。しかし、先生方にアドバイスをいただいたり、友達に支えられたりと周囲のサポートを受け、本当に幸せ者だと感じる瞬間が沢山ありました。

学祭当日、初めての企画に沢山の方に喜んでいただき、模擬病院にはたくさんの笑顔があふれ、「ありがとう」という言葉が飛び交いました。笑顔になった人が



次は違う方を連れてきてくださり、また笑顔が広がる温かい空間になったと思います。模擬病院委員を通して沢山の人と出会い、触れ合いというのは本当に素晴らしいものだ改めて感じました。医療従事者になるにあたり、何事にも挑戦する向上心、そしてコミュニケーション能力の必要性を心にとめ、今後にかかしていきたいと思っています。今回ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

数字で見る医学部

～平成24年3月卒業者の進路状況～

H24.2現在

医 学 科	
進 路 先	合 計
徳島大学病院	31
徳島赤十字病院	9
県立広島病院	2
神鋼病院	1
徳島県立中央病院	1
日本赤十字社 和歌山医療センター	1
愛媛大学附属病院	1
市立伊丹病院	1
淀川キリスト教病院	1
兵庫県立淡路病院	1
大阪市立大学附属病院	1
京都第二赤十字病院	1
沖縄豊見城中央病院	1
中部徳洲会病院	1
新小文字病院	1
西宮市立中央病院	1
神戸労災病院	1
高槻病院	1
兵庫医科大学病院	1
六甲アイランド病院	1
市立吹田市民病院	1
国立病院機構高知病院	1
医仁会武田総合病院	1
岡山済生会総合病院	1
富岡総合病院	1
神戸大学附属病院	1
明石市立市民病院	1
三豊総合病院	1
康生会武田病院	1
徳島市民病院	1
住友病院	1
東京医科歯科大学附属病院	1
沖縄協同病院	1
近畿中央病院	1
九州中央病院	1
大阪警察病院	1
ハートライフ病院	1
湘南鎌倉総合病院	1
水島協同病院	1
八戸市立市民病院	1
兵庫県立姫路循環器病センター	1
南部徳洲会病院	1
神戸赤十字病院	1
沖縄県立中部病院	1
愛媛県立中央病院	1
社会保険中京病院	1
滋賀医科大学病院	1
石川病院	1
小 計	87
大 学 院 進 学	
京都大学大学院医学研究科	1
小 計	1
未定	2
合 計	90

栄 養 学 科	
進 路 先	合 計
鳥取県職員	1
マリンフード(株)	1
(株)四電工	1
日亜化学工業(株)	1
博愛記念病院	1
佐藤循環器科内科	1
(株)マルタマフーズ	1
アドバンテック(株)	1
(株)メフォス	1
健祥会	1
健康保険鳴門病院	1
東洋ナッツ食品(株)	1
(株)ボスコフードサービス	1
(株)魚国総本社	1
医療法人かわせみ八多病院	1
徳島県農業協同組合中央会	1
小 計	16
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	27
新潟大学大学院	1
東京大学大学院	1
鳴門教育大学大学院	1
小 計	30
未定	4
合 計	50

保健学科：看護学専攻	
進 路 先	合 計
徳島大学病院	20
神戸大学医学部附属病院	18
大阪大学病院	1
東京大学医学部附属病院	1
香川大学医学部附属病院	1
京都大学医学部附属病院	1
徳島赤十字病院	3
西神戸医療センター	1
佐賀大学医学部附属病院	1
鳥取大学医学部附属病院	1
兵庫医科大学病院	2
京都府立医科大学附属病院	1
田岡病院	2
高松赤十字病院	1
香川労災病院	1
飯塚病院	1
関西電力病院	1
広島大学病院	2
津田沼中央総合病院	1
香芝市保健センター	1
四国中央市	1
三原市	1
神山町役場	1
三好市職員	1
小 計	65
進学(日本赤十字広島看護大学)	1
進学(徳島大学保健科学教育部)	8
小 計	9
未定	4
合 計	78

保健学科：放射線技術科学専攻	
進 路 先	合 計
徳島大学病院	1
徳島県立中央病院	1
徳島県立三好病院	1
高知大学病院	1
岡山大学病院	1
長崎大学病院	1
宮崎大学病院	1
琉球大学病院	2
大阪市立大学病院	1
香川大学医学部附属病院	1
福岡大学筑紫病院	1
福岡赤十字病院	1
山田赤十字病院	1
佐賀大学病院	1
関西電力病院	1
九州厚生年金病院	1
京都民医連病院	1
倉敷中央病院	1
古賀病院21	1
相良病院	1
湘南鎌倉病院	1
徳島赤十字病院	1
住友別子病院	1
先端医療センター	1
高槻病院	1
西陣病院	1
ベルランド総合病院	1
沖縄県総合保健協会	1
回生病院	1
沖縄県	1
兵庫県	2
徳島県	1
小 計	34
進学(徳島大学大学院)	4
未定	1
合 計	39

保健学科：検査技術科学専攻	
進 路 先	合 計
徳島大学病院	2
J A 徳島厚生連	2
阿南医師会中央病院	1
徳島赤十字病院	1
川島病院	1
田岡病院	1
高知大学病院	1
高松赤十字病院	1
松山赤十字病院	1
神戸百年記念病院	1
J A 高知	1
春藤内科	1
小 計	14
(進学) 徳島大学大学院保健科学教育部	4
九州大学保健科学教育部	1
未定	2
合 計	21

第58回徳島大学解剖体慰霊祭

事務部学務課

平成23年10月14日(金)15時から徳島大学大塚講堂において、第58回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者562人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体して下さった方々の亡き御霊5915柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。



新任教職員あいさつ



呼吸器・膠原病内科学分野 教授 西岡 安彦

平成23年11月1日付けで、呼吸器・膠原病内科学分野教授に就任いたしました西岡安彦と申します。私は、徳島県三好市三野町出身（脇町高校卒）で、昭和63年に徳島大学医学部医学科を卒業し、

呼吸器・膠原病内科学分野（旧内科学第三講座）で呼吸器内科ならびにリウマチ・膠原病内科領域の診療、研究、教育に従事してまいりました。米国ピッツバーグ大学ならびにM. D. アンダーソン癌センターへの留学以外は、一貫して徳島大学ならびに徳島大学病院で勤務してきたことになります。大学院時代に疾患酵素学研究センター「シグナル伝達と糖尿病研究部門」の蛭名洋介教授の教室への学内留学で基礎研究への思いを強くし、米国ピッツバーグ大学「Human Gene Therapy Center」への留学

で「臨床応用」への夢を持つようになりました。そして現在、肺癌および肺線維症の分子標的治療開発へのトランスレーショナルリサーチを行っています。まだまだ道のりは遠い気がしていますが、仲間と一緒に目標に向かって取り組むチャンスをいただいたと思っています。学生時代には卓球にかなり真剣に取り組んでいましたが、一番の思い出は4年生の春に西日本医歯薬卓球大会で団体優勝をした事です。チームとして目標を達成した時の充実感は個人戦で優勝した時の比ではありません。呼吸器・膠原病の分野で教員と同じような思いが共有できるよう取り組んでいきたいと思っています。また、これまでの経験を生かしリサーチマインドを持った医師が育つような教育を心掛けていきたいと思っています。皆様方には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



子どもの保健・看護学分野 教授 森 健治

平成24年4月1日より、子どもの保健・看護学分野に就任いたしました。私はこれまで、徳島大学小児医学分野にて自閉症などの発達障害や難治性てんかんの病態解明および治療法の開発に関する

研究を行ってきました。特に自閉症においては、扁桃体を中核とする大脳辺縁系や内側前頭前野に神経細胞障害が存在し、それがてんかんの併発や自閉症状の発現に関与していることなどを明らかにしてきました。

最近、小児科診療では発達障害、不登校、虐待、身体疾患にまつわる心理的問題をかかえ訪れる患児が増加しています。そ

して地域社会の人間関係の希薄化に伴い、育児不安や虐待に代表される親の養育力不足が指摘されており、子育て支援に対する社会の関心が高まっています。小児看護においても、さまざまな発達段階の子どもに対して、コミュニケーション能力を駆使して、子どもの置かれている状況を理解し、子どもや家族が最大限の能力を発揮してその状況に対処できるように支援することが重要であります。そのために私は、子どもの発達を正確に評価し発達をサポートする能力、育児不安や子ども虐待など現代社会における子どもと家族を取巻く諸問題を把握し専門性の高い援助ができる能力を習得するための教育に貢献したいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



病院地域脳神経外科診療部 特任教授 影 治 照 喜

平成23年11月1日付けで徳島大学病院地域脳神経外科診療部特任教授に就任しました。私は海部郡美波町出身で昭和63年に徳島大学医学部医学科を卒業しました。学生時代は、とても勉強に熱心な

学生とは程遠く、準硬式野球部に所属して白球を追いかけていた“baseball kids”でした。卒業後は、何となく人と違うことがしてみたいぐらいの軽い気持ちで脳神経外科に入局しました。当時から仕事にはとても厳しい診療科で、入局後は昼夜を問わずの緊急呼び出しに長い手術、げっそり痩せてしまいました。研究・診療は脳腫瘍全般を行ってきました。今回、徳島県

からの寄付講座による地域脳神経外科診療部が開設されました。これは海部地域の脳神経外科診療の充実を目的としています。海部地域は徳島県の中でも医療過疎地域で県中央部に比べての医療格差が著しく、同地域は過去3年間、急性期脳卒中を専門的に診療できる医療機関が無かったことから海部郡内で発症した脳卒中患者は症状の重篤性に関わらず県中央部までの搬送を余儀なくされてきました。県立海部病院を中心として、脳卒中をはじめ脳神経外科疾患の診療充実を図り、今後、さらに地域に根差した診療と治療を行いたいと考えています。私の故郷である海部地域住民の方々のために少しでも恩返しができたら願っています。

新任准教授 紹介

異動年月日	異動内容	氏 名	所 属
H 24. 1. 1	昇 任	里 見 淳一郎	脳神経外科学分野
H 24. 2. 1	昇 任	埴 淵 昌 毅	呼吸器・膠原病内科学分野
H 24. 4. 1	昇 任	村 尾 和 俊	皮膚科学分野
H 24. 4. 1	採 用	橘 川 薫	放射線科学分野



退職者ご挨拶



母性・小児看護学講座 教授 二宮 恒夫

スカイツリーの開業まで間近である。予約のチケットがすぐに完売になったそうである。私たちが昇れるのは、せいぜい展望台までである。一番先端に座って、風景をバックに写真におさまった人たちがいる。最後に先端部分を完成させた人たちである。NHKのテレビでこの映像を見た時、どんな職業でも、同じ職業にいても、自分しか体験できないことがあることに気づかされた。自分が歩いた道は、自分しか体験しなかつ

たことがあるのだろう。それが何かはわからないけれど、これからは自分しか体験できないことがあるのかと思うと、なんだかワクワクしてくる。これからは大切に歩みたい。

何よりも子どもとその家族に教えられることが多かった。子どもと本音で話す時、子どもは発達に必要な栄養素を教えてください。家族の大切さに触れた。これからは子どもの心に触れていたい。

最後に、これまで出会った多くの方々、徳島大学に心から感謝申し上げます。

たことである。NHKのテレビでこの映像を見た時、どんな職業でも、同じ職業にいても、自分しか体験できないことがあることに気づかされた。自分が歩いた道は、自分しか体験しなかつ



基礎看護学講座 教授 關 戸 啓 子

平成14年4月に前任大学から徳島大学医学部保健学科へ着任して以来、10年間にわたり徳島大学の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。徳島大学を卒業したときには、自分が母校で教員として勤務するとは想像もしていませんでした。それが、チャンスに恵まれて徳島大学に就職させていただけたことは、わたしにとって夢のようなできごとでした。それから10年、力不足を

感じることも多々ありましたが、母校のあたたかさにつつまれて何とか過ごすことができました。蔵本キャンパスから見る眉山の景色は、四季折々に目を見張るような美しさがあります。眉山にいだかれた美しいキャンパスで四季を感じながら楽しく過ごさせていただき、去るのとはとても残念ですが、次へのチャレンジを決心いたしました。神戸大学大学院保健学研究科へ就任いたしましても、引き続き、皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

勤務するとは想像もしていませんでした。それが、チャンスに恵まれて徳島大学に就職させていただけたことは、わたしにとって夢のようなできごとでした。それから10年、力不足を



腫瘍内科学分野(寄附講座) 特任教授 秋 山 伸 一

2年間という短い間でしたが、腫瘍内科学分野で癌の新しい治療法の開発研究に専念する時間を与えていただいた徳島大学に心から感謝しています。

な抗がん剤の開発、不治の病に苦しむ人々に快癒の希望を与えることのできる新しい治療法の開発、を目標にしてこれまで走ってきましたが、襷を次のランナーに渡す中継所まで来たようです。区間新記録の樹立や、十数人抜きなどの華々しいことは何もできまなかったが、脱水症状による途中棄権などのアクシデントもなく、襷を無事つなげることにささやかな喜びを感じています。再び襷をかけて走る日を夢見ながら、しばらくはジョギングを楽しむ予定です。

おかげさまで、20年余り研究してきた血管新生因子の作用機構を分子レベルで解明することができ、研究に一区切りつけることができました。不治の病である転移を伴う固形腫瘍を治すことのできる革新的

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

岡 奨 学 賞

桑 野 由 紀 (ストレス制御医学分野 助教)
富 永 辰 也 (微生物・遺伝子解析学分野 助教)
*医学部、疾患酵素学研究中心、疾患ゲノム研究中心において、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

■第244回徳島医学会学術集会(平成24年2月12日)において、第28回徳島医学会賞及び第7回若手奨励賞の受賞者が選考されました。

徳 島 医 学 会 賞

大 学
坂 東 美 佳 (循環器内科学分野)
＜脂質低下療法による頸動脈プラーク安定化の評価：超音波integrated backscatterを用いたカラーマッピングシステムの臨床応用＞

医 師 会
西 内 健 氏 (川島病院)
＜徳島高血圧・糖尿病 study 2011 - 高血圧・糖尿病合併例に関する多施設研究 -＞

若 手 奨 励 賞

矢 野 祖 (病院卒後臨床研修センター)
＜神経サルコイドーシスの1例＞
高 橋 直 希 氏 (田岡病院 研修医)
＜約10分間の心停止にも関わらず病院間連携で社会復帰したBrugada症候群の一例＞

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞 住 谷 さつき (精神医学分野 准教授)	保健学優秀教育賞 南 川 貴 子 (療養回復ケア看護学分野 助教)
栄養学優秀教育賞 奥 村 裕 司 (生体栄養学分野 准教授)	*医学科、栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

Best Teacher of the Year 2011 賞

医 学 科 中 川 美 砂 子 (胸部・内分泌・腫瘍外科学分野 助教)	栄 養 学 科 瀬 川 博 子 (分子栄養学分野 講師)
林 幸 壱 朗 (顕微解剖学分野 助教)	保 健 学 科 富 永 辰 也 (微生物・遺伝子解析学分野 助教)
長 井 幸 二 郎 (検査部 講師)	

*Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2011 賞 受賞者
後列左から：瀬川博子、奥村裕司、富永辰也、中川美砂子、南川貴子、住谷さつき
前列左から：寺尾栄養学科長、玉置医学部長、丹黒医学科長、多田保健学科長

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

中 田 賞



第58回医学科卒業生(平成24年3月卒業)
林 桃子

この度は、名誉ある中田賞をいただき、大変光栄に感じております。この6年間、たくさんの方々に支えていただきながら大学生活を送ることができました。温かくご指導していただいた先生方、共に勉学に励んだ友人、部活動で出会ったかけがえのない仲間、いつも見守ってくれた家族に心から感謝しております。今後もこの受賞を励みとし、医療に貢献できるよう、日々精進してまいります。

看護学専攻賞



第7回看護学専攻卒業生(平成24年3月卒業)
井上 佳映

この度は看護学専攻賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。4年間温かくご指導くださった先生方をはじめ、家族や友人のおかげであると心から感謝しております。大学生活では、多くの出会いの中で勉強やサークル活動等、充実した日々を送ることができました。大学でのひとつひとつの出会いを大切に、今後も初心を忘れず日々努力してまいります。

す だ ち 賞



第7回検査技術科学専攻卒業生(平成24年3月卒業)
舛 森 亜 弓

この度はすだち賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。4年間ご指導下さいました先生方をはじめ、支えてくれた家族や友人に心より感謝しております。大学生活での学びは自分自身を成長させる充実したものでありました。今後もこの賞をさらなる励みとし、日々精進してまいります。

児 玉 賞



第45回栄養学科卒業生(平成24年3月卒業)
黒 田 雅 士

この度、名誉ある児玉賞を受賞させていただき大変光栄に感じております。ご指導いただいた先生方をはじめとし四年間支えてくださいましたすべての人に心より感謝いたします。大学生活は実習、講義を通して栄養学という学問の魅力を感じ、同時にその奥深さにも触れ非常に充実しておりました。今後もこれまでの学びを生かし、日々精進してまいります。本当にありがとうございます。

放射線技術科学専攻賞



第7回放射線技術科学専攻卒業生(平成24年3月卒業)
橋 本 己 代

この度は、放射線技術科学専攻賞という名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。4年間ご指導いただいた先生方をはじめ、支えてくれた友人や家族に心から感謝しております。大学で学んだことを活かし、この賞に恥じぬよう日々精進してまいります。

竹 内 賞



第6回助産学専攻卒業生(平成24年3月卒業)
山 下 寿 美 礼

この度、竹内賞を頂き本当に光栄に存じます。助産学専攻科では、母子二つの命を預かるという大きな責任の中、どのように“安全・安心・満足のいくお産”を助産師の判断と技術により提供できるのかを学んだ一年となりました。助産実習に同意して頂いた妊産婦さん、ご家族の方々、ご指導下さった指導者の皆様に感謝申し上げます。この思いを胸に“命の現場”に携わる者として、日々精進して参ります。

医学部優秀学生賞

医 学 科 4 年 次：隅 田 ちひろ
 栄養生命科学教育部博士前期課程2年次：大 谷 彩 子
 医学部硬式庭球部(団体1)：多 田 彩 子(外3名)
 蔵 本 剣 道 部：安 井 可奈子
 医 学 科 5 年 次：村 田 明 穂
 保健学科看護学専攻3年次：小 松 龍 矢

保健学科看護学専攻3年次：上 田 卓 矢
 医学部硬式庭球部(団体2)：田 辺 成 美(外10名)
 蔵 本 祭 模 擬 病 院 部：若 林 紗也子(外30名)
 三つ子ちゃんへの育児支援ボランティア活動：木 村 有 里(外3名)

※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。(注：年次は選考時のものです。)



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準」を満たしていると認定されました。

(平成19年3月28日)

● 認証評価機関

独立行政法人大学評価・学位授与機構

● 認証期間 7年間

(平成19年4月1日～平成26年3月31日)

編集後記



「Stay hungry, Stay foolish」という言葉が巻頭のタイトルで見られた。一流になる者に必要なものとして好奇心があげられる。ものを知りたい、習得したいという“内からのwant”である。この能力に長けた者は、知識や技能が一流でなくても、それを克服する能力が秘めている。一方、既存の常識にとらわれない柔軟な考えは立ち向かう困難な局面を打破するために必要である。人の意見にとらわれない“鈍感力”もその一つかもしれない。残念ながら、これらは大学の講義で得られることは少ない。人はロボットではないので何事も正確にできるわけではない。しかしながら外的体験により、今日より明日、明日より明後日と進歩ができる。若いときに身につけた感性は、その後の人生を大きく左右する。桜咲く4月、今年も蔵本キャンパスでの大学生活がスタートする。(酒井)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
 広報委員 酒井 徹(委員長)、泉 啓介、三田村佳典、森口博基、安友康二、田村綾子、米原壽男、福永大幹、橋本 怜、小島巧也

本誌へのご意見・ご要望は、(第一総務係:坂本)E-mail:isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp まで
 お願いします。なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel:088-633-9118 Fax:088-633-9028 URL http://www.tokushima-u.ac.jp/med/